

MAP



真夏の暑い夜、太鼓の音が響き出すと血が騒ぐ、心躍り、じっとしてなんかいられない、これが「うちなーんちゅ」の証である。誰もが参加できるエイサー。街中が熱気に包まれる。初めてあう人もエイサーだと垣根はないも同然！誰もが人にやさしくなる。ここで本当の自分を探してみよう。新しい自分が発見できるかも。各市町村では年に一回、農業・漁業に関わるまつりを開催。まつりでは、農家・漁家が丹精込めて作った加工品を持ち寄り、展示・即売、生産者と消費者の交流の場になる。中部はまつり、イベントの多い地域。農村に伝わる昔からの伝統を引き継ぎ、現代風のイベントとして定着した「エイサー」、伝統芸能を後世に残す「獅子舞」、生産者と消費者を結びつける「農・漁まつり」等、多彩な催しが満載。



勇壮・浪漫  
獅子舞。

豊年祭に登場する獅子



獅子舞

獅子舞は、旧暦の8月15夜を中心に年一回、豊年祭りや厄払いとして登場する。祝女殿内(ヌンドンチ)あるいは集落内の疫病や厄払いのため練り歩くのが、昔からの習わしのように、神事性が強く、一般にはあまり知られていない伝統文化のひとつ。沖縄の獅子舞の特徴は、外見はリアルで獣に近く、舞い方も動物的で、いかにも厄払いにふさわしく荒々しい舞いを披露してくれる。

全島獅子舞フェスティバル  
毎年秋に行われている具志川市主催の「全島獅子舞フェスティバル」は沖縄の各地域で奉納されている獅子舞が一堂に集い、伝統の技を披露するイベントとして開催されている。沖縄の獅子舞については後継者の確保が困難で、ともすれば保存継承が滞っているところも多かったため、これを民俗芸能として保存継承・発展を図るという趣旨で昭和61年スタート。

獅子は二人で一個体  
獅子舞の面白さは、勇壮・ダイナミックな技が人々の心をかき立て、そしてユーモラスで細かな仕草が人々の心を和やかに



してくれる。それだけに舞手には高度な技術が要求される。盛夏、あの毛むくじやらの狭い胴体の中に二人が小さくなって入り、緩急自在、縦横無尽に動き回らなければならない。その一連の動きの中にも頭部と下部のそれぞれの細かい動作、瞬時に両者が一体となって横転したり、立ち上がったたり、一糸乱れぬ一個体としての生き物となる。一人前に踊れるようになるには、少なくとも三年以上の経験が必要だと言われている。

祭

農・漁業まつり

中部地区の各市町村では、年に一回農業に関わるまつりが開催されており、農漁業に親しむことができる。まつりでは、農家・漁家が丹精込めて作った加工品を持ち寄り、展示・即売・審査し、生産者と消費者の交流の場となっている。



【沖縄市産業まつり】

沖縄市などで生産されている多数の農産物、木工芸品、泡盛や焼き物などが一堂に展示され、例年多くの人で賑わう。



【読谷村漁協まつり】

海の日7月20日、読谷漁協まつりが読谷村の都屋漁港で開かれる。魚のつかみ釣りや競りに挑戦したり、子供達が実際に船に乗って定置網漁などを体験することができ、実際に「海の幸」の恵みを楽しんでいる。また、都屋漁港近海にジンベイザメが生息していて、期間中は体験ダイビングでジンベイザメとふれあうことができる。



踊り遊びで  
ちむドンドン!

エイサー

エイサーの起源は、琉球王朝時代にさかのぼる。神官のような者が、各戸を巡回しながら歌や念仏を唱え、太鼓を打ちながら、祖先の霊を慰め、その家の無病息災を祈願したのが始まり。その後、釈迦の「地獄の鬼に苦しめられている祖先を救い出すには、7月の中旬に三日三晩供養すれば、極楽に導かれる」という教えにより、首里王家につながる「王家の神事(祭政)」として盆祭りが始まったようだ。このような祖先崇拝のいわゆる宗教的な行事が、このエイサーの始まりとされ、いつしか庶民にもこの行事が広まっていったと言われている。旧盆明け最初の土日に開催される全島エイサーまつりは、県内最大のエイサーまつり。

毎年趣向を凝らした全島各地の舞いが集まり、ときにはユーモラスな演出を交えながら、その伝統の重みを見せてくれる。このエイサーまつりに出場するチームも様々。汗の噴き出るような勇壮な青年エイサーや優雅で気品のある婦人エイサー、国際交流の輪がさらに広がることを願い結成された外国人チーム、小学生が披露する子供エイサーなどがある。また、県外のメンバーも多く、独創的な踊り、太鼓を披露し、意欲的な演出が特徴の琉球国まつり太鼓は、全国的にも有名。世界的に類のない、エイサーの見事なまでのオリジナリティーは海外からも注目されており、毎年大勢の観光客で賑わう。

迫力・興奮  
闘牛。



あふれる力と情熱。農村の人々が最も楽しみにしている闘牛は、明治中期に始まったとされる。具志川市を始め石川市、与那城町、沖縄市等で開催される。時には、何百キロもある巨体がひっくり返ることも。迫力のある闘いは一見の価値あり！  
戦前の闘牛はアブシバレー(睦しい、4月)、5月5日、原山勝負、8月15日、9月9日(いずれも旧暦)の日を中心に、年中行事の中の余興のひとつとして行われていた。試合は大事な労役牛にケガをさせないよう途中引き分けが原則。小さな集落のそこかしこに、今でも牛を散歩に連れ出す人々の姿がある。一瞬時間が止まったような、そんな印象がいつまでも残る不思議な町の風景だ。



ながみの農林漁業まつり

祭事名称	開催時期	連絡先	T E L
石川市産業まつり(農産物即売会)	12月第三土・日	石川市産業振興課	098-965-5020
山羊フェスティバル	6月第二日曜日	沖縄市農林水産課	098-939-1212
沖縄市産業まつり(農産物展示会)	旧正月前日の日曜日	沖縄市商工労働部	098-939-1212
パヤオまつり	5-6月	沖縄市漁港/パヤオ	098-938-5811
港まつり in 泡瀬	10月	沖縄市漁協	098-939-3711
中城村農産物展示即売会	12月	中城村経済課	098-895-2131
町おこし物産フェア(農産物展示会)	2月	勝連町商工会	098-978-3168
西原町産業展示会	隔年開催	西原町産業課	098-945-4540
ふるさと高い坂(農産物展示会)	12月	具志川市農林水産課	098-974-3111
読谷村まつり(農産物展示会)	11月第一土・日	読谷村総務課	098-982-9215
読谷村漁協まつり	7月20日	読谷村商工水産課	098-982-9215
与那城町農産物展示会	2月下旬	与那城町産業課	098-978-3619
北中城まつり(農産物展示会)	11月	北中城村産業振興課	098-935-2233
宜野湾市産業まつり(農産物展示会)	11月下旬	宜野湾市農林水産課	098-893-4411
野間総管まつり(農産物展示会)	10月第一土・日	嘉手納町産業振興課	098-956-1111